

人工乳房再建手術に保険適用 県内で初認定 橋本市の紀和病院



和歌山県橋本市岸上の紀和病院はこのほど、乳がん患者の人工乳房（シリコーン製）再建手術に公的医療保険を適用できる医療機関として認定を受けた。県内での認定は初めて。玉置病院（田辺市上屋敷2丁目）の非常勤医師で、紀和病院の梅村定司医師（47）は「乳がんの患者さんに再建の選択肢があることを知ってほしい」と話している。

乳房の全切除後の再建はこれまで、背中中の筋肉などを移植する「自家組織再建」しか保険が適用されなかった。自家組織再建の場合、自分の筋肉などを使うためなじみやすいが、背中に傷が残ったり、体への負担が大きかったりすることが課題だった。

一方、シリコーン製の人工乳房を使った再建は保険適用外で、乳がん手術と同時に再建手術を行うと、乳がん治療に掛かる費用や術後の検査費用なども自費負担になっていた。

乳房再建は、喪失感の解消や一般の下着が利用できるようになるなど、乳がん患者の「生活の質（ＱＯＬ）」の改善につながるため、今年7月に公的医療保険の対象となった。これまで100万円以上だった自己負担額が、保険が適用されることで3割負担に軽減される。

保険が適用されるのは、アラガン・ジャパン社の人工乳房と、再建のため皮膚を伸ばす組織拡張器。再建は、乳房を切除する際に拡張器を体内に入れ、そこに生理食塩水を注入して周囲の皮膚を伸ばし、その後人工乳房と入れ替える。

乳がん手術は近年、乳房をできるだけ残す乳房温存術が主流になっているが、約半数のケースで乳房の全切除が必要という。

紀和病院は2009年に乳がん治療を専門とする「紀和ブレスト（乳腺）センター」を開設。昨年1年間で44人の乳がん手術を行い、そのうち乳房の全摘出は21人だった。保険適用の医療機関として認定を受けるには、乳腺専門医と形成外科専門医がいることや必要な講習を受けることなどが条件で、紀和病院は10月11日に近畿厚生局から認可を受けた。

紀和ブレストセンターのセンター長を務める梅村医師は、玉置病院の非常勤医師として毎週木曜に診察を担当。平日以外でも相談や検診に対応できるよう月1回土曜に来院している。梅村医師は「手術は認定施設で受ける必要があるが、相談や診察は玉置病院で受けられるので、相談してほしい」と話している。

【再建手術に使われるシリコーン製の人工乳房を手にする梅村定司医師（和歌山県田辺市の玉置病院で）】